

## 会 議 録

会議名称	令和4年度 第2回座間市子ども・子育て会議		
日時	令和4年12月13日（火） 10時～11時30分		
場所	サニープレイス3階 多目的室		
出席委員	飯田委員、稲垣委員、大下委員、小澤委員、高松委員、畑中委員、飛田委員 松本委員、湯川委員		
事務局	子ども未来部長、子ども政策課、子ども育成課、保育課、青少年課、健康づくり課		
会議の公開可否	■公開 □一部公開 □非公開	傍聴者数	0人
次第	○委嘱式 1 委嘱状交付 2 部長あいさつ  ○開会 議題 (1) 教育・保育事業の利用実績報告について (2) 第2期座間市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて (3) 栗原幼稚園の利用定員の変更について (4) その他  ○閉会		
配布資料	資料1 教育・保育事業の利用実績報告について 資料2 第2期座間市子ども・子育て支援事業計画中間見直し（案） 資料3 栗原幼稚園の利用定員の変更について		
○委嘱式 1 「委嘱状交付」 委員交代に伴い内田部長が新委員へ委嘱状を交付した。 ※任期は前任の期間を引き継ぎ令和6年7月31日まで  2 「部長あいさつ」 内田部長より新委員へ挨拶を申し上げた。  ○開会 子ども子育て会議委員14名中9名が出席し、座間市子ども・子育て会議規則第5条第2項により会議が成立  「議題」 資料を確認後、座間市子ども・子育て会議規則第5条第1項により大下会長が議事を進行			

(1) 教育・保育事業の利用実績報告について

○事務局（保育課）

教育・保育事業の利用実績報告を資料1に基づき説明。

○委員

令和3年度の1号認定について、確保数（計画値）1818人、確保数（実績値）1752人で、進捗率96%とはどういう状態か。

また、令和6年度の確保数（計画値）とは何か。

○事務局（保育課）

令和3年度の1号認定の定員計画値1818人のうち、1752人分を確保したということ。

令和6年度の確保数（計画値）は令和6年度には、1818人分確保する計画ということ。

○委員

待機児童解消のための具体的にどう取り組んでいるか。

○事務局（保育課）

令和5年4月1日に公立保育園（緑ヶ丘保育園）の民営化、相武台地区に小規模保育施設の設置、令和6年4月1日にちぐさ保育園の民営化により待機児童解消を図りたい。

○委員

民営化によって定員が増えるということはどういうことなのか。

また、定員増により保育士の雇用も増やす予定か。

○事務局（保育課）

市有地に民営企業が園舎を建て、保育室の面積が増えることで定員増が図れる。

また、保育士の数も合わせて増やしていく。

(2) 第2期座間市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて

○事務局（子ども政策課）

第2期座間市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて、資料2に基づき説明。

○委員

1・2歳児の定員について、令和3年度実績から令和6年度の計画で400名弱増やすことになっているが、こういった方法で増やすのか。

○事務局（保育課）

第2期子ども・子育て支援事業計画では既存の施設を活用していく。

幼稚園の利用者が年々減少していること、幼稚園で1・2歳児を預かることで降りる国の補助金を活用したいと考えている。

また、新規園を作りすぎたことにより、空きが出ている自治体もあるため、既存の施設を優先に整

備して待機児童を解消していく。

○委員

栗原幼稚園の定員減のことについて、新しい建物を建てるとなると多額の税金が必要になるので、単に定員を減らすのではなく既存の施設をうまく活用して、一時保育や児童ホームなどの受け皿になってもらえる可能性を検討し、待機児童を減らすことができればよいと思う。

○委員

緑ヶ丘保育園について、座間中の隣に建設中の新しい園舎は楽しみだが、古い園舎は取り壊してしまうのか。新しい子育て支援を模索して活用してもらいたい。

○事務局（保育課）

市有地活用委員会で利用方法を検討中であり、現時点では決まっていない。

○委員

私は幼稚園教諭の資格を持っていて、子どもを預けようと思ったことがないが、ここ数年で身の回りの人から保育園に預けているという声をよく聞くようになった。逆に、幼稚園の希望者が少なくなっていると聞かすが、なぜこのような状況になったのか、事務局、委員にかかわらず意見を聞きたい。

○委員

子育てネットワークでの聴き取りによると、育児休業制度をうまく活用して仕事を続けていく方が多いのが理由の一つと考えている。

○委員

周りの話を聞くと、3歳以上の保育の無償化が大きいと感じる。幼稚園も保育園も無料であれば、働いて収入を増やしたいということで新しく仕事を始める方もいる。私も1人目は保育園に入れて仕事を続けていたが、2人目は自分の子どもと深く関わりたいという思いや、幼稚園も経験したいということもあって、幼稚園へ転園させた。保育園と幼稚園の両方を経験した身としては、保育園は、家庭的であったり、長く預かってもらえたりといった良さがあ、幼稚園には教育をしてもらえるという良さがある。両方経験した身としては、どちらが良いとも言い切れない。

○委員

保育士で勤務している中で園見学に来る父兄の方に話を聞くと、長時間働く保護者が増えており、土曜日や長期休暇がない保育園に預けたいという保護者がすごく増えている。

幼稚園に通っている子どもを夏休みだけ保育園に一時保育で預けたいという方も多くいる。

色々な考えの保護者がいるが、保育園に入れた方が、子どもをあちこち行かせなくても同じ環境でずっと過ごせるのが良いという考え方の保護者が増えている。

あとは、保育園は7時くらいから延長保育を利用すると19時、20時まで預かる所が多いので、そういった理由で保育園を選ぶ保護者が増えていると現場では感じている。

また、保育・教育内容としては保育園も幼稚園もほとんど変わらない。少し前のイメージだと、保育園はただ遊ばせているだけという所が多かったと思うが、現在はそれぞれの保育園の特徴を生かし

た保育をしている。幼稚園と同じようなことをしていて、かつ、長い時間預かってもらえるなら、仕事をしやすい保育園にしようとする保護者が増えているのではないか。

○委員

私も保育園の園長をしているが、園が駅から近く、駅を利用する保護者が多くいるが、職場が遠いことも多く長時間利用している。私の園では6時30分から、19時40分まで延長でき、特別講師がいるなど幼児教育に必要なことを園で検討して行っている。

○会長

本日、幼稚園関係の方の意見も聞きたかったが、本日は残念ながら欠席のため以上でよろしいか。

○委員

とても参考になった。頑張って仕事をして保育園にも入れても、子どもが小学校に上がって児童ホームに入れるのが怖くて仕事を辞めたという人が多いことはもったいないことだと思う。

○委員

これは要望だが、市の規定では1・2歳を保育士1人につき6人まで預かることができるが、保育士が足りないことや、預かった子どもに対する保育、態度などが問題になっている。

教育・保育の定員を増やしつつ、保育士の質と量、保育士1人につき預かることができる子どもの数を緩和して頂きたい。

議題(3)栗原幼稚園の定員変更について

○事務局（保育課）

栗原幼稚園の定員変更について資料3に基づき説明。

○委員

利用定員が変わるとどういうことが変わるのか。

○事務局（保育課）

施設に支払う給付費の単価基準は、利用定員に応じて決まるため、認可定員と実際の利用者の差が大きいほど園の経営が圧迫される。利用者側の不利益はない。

○委員

利用者の実績数はわかったが、来年度利用希望者が増えた場合は受け入れられなくなるのではないか。

○事務局（保育課）

4月1日時点では定員の210名を超えることはできない。しかし、仮に定員を上回った応募があった場合でも、5月以降なら利用定員にかかわらず入園できる。

○委員

以前は幼稚園に入ることが難しく、願書を受け取るために朝早くから並ぶ時期もあった。定員が減ると、その時のようになるのかなと思う。

○事務局（保育課）

過去数年の実績から園が出した数値なので、超えることはないと考えているが、園の申し出によって再度利用定員を増やすことはできる。

○委員

学童の待機児童が多くいるが、栗原幼稚園が利用定員を減らしたことで空き教室も増えるのではないかな。空いた教室を学童として利用できないかな。

○事務局（保育課）

昨年、市から空き教室を使って幼稚園2型ができないのか、幼稚園9園にヒアリングをしたが、利用者が利用定員より少ない場合でも、認可基準よりも広い部屋で教育・保育をしており余っている部屋はなかった。

○委員

幼稚園に通っていた児童が、1，2年生になってもそのままその学童に優先的に入れるような制度ができれば、少々狭くても希望者が増えるのではないかなと思う。

○委員

幼稚園の在籍数についての考え方を確認したい。

○事務局（保育課）

4月1日に入園する園児と、既存の園児を足した栗原幼稚園全体の児童数が205名ということ。

議題(4)その他

○委員

こども園が座間市にないため、幼稚園と保育園の良さが融合したこども園を作ってほしい。

○事務局（保育課）

幼稚園によっては、小規模保育施設を作って3歳以降になったら幼稚園で連携したいという意向を示している園もある。認定こども園については、昨年のヒアリングの段階では出ていない。

○委員

働くお母さん達も、子どもには色々な経験をして、自分の財産になる園生活というのを望んでいると思うので新しい園の形として今後も検討してほしいと思う。

○委員

資料2の7ページについて、地域子育て拠点事業とは子育て支援センターのことだと思うが、コロ

ナ禍においては予約制ということもあって実績値が減っていると思う。w i t h コロナが進んでいる中で予約制はいつまで続くのか。量の見込みとしては減っているけれども、w i t h コロナで制限が緩和されたときに、どう対応しようと考えているのか。

○事務局（子ども政策課）

今は感染症対策のため予約制にしており、利用者数が減っているということもあるが、今回の目標値については人口推計を基に、養育者1人が子どもを何人連れて来ているかというのを数値で出して、0歳から6歳までの人口に掛け合わせて出した数値を割り戻して、再度見直したという形。

目標の数値としては人口に対して算出しているので、大きくは変わらないと思っている。

ただし、状況が変わることはあり得るので、その場合は何かしら検討する必要があると考えている。

また、予約制については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況を見て、周囲の状況も見ながら検討していく。

○委員

そうなると支援センターの人件費なども減らしていく方向になるのか。

○事務局（子ども政策課）

人件費については今のところ減らす考えはない。国の補助事業なので、見合ったものでやっていく予定である。

○会長

その他に意見、質問がなければ、本日予定していた議事は終了とする。

○閉会

○事務局（子ども政策課）

今回の会議は、令和5年3月23日（木）開催する。

議題は「令和5年度教育・保育の利用定員について」他を予定している。